

やっぱり秋は“きのこ”で決まり！

10月15日は、“きのこ”の日です。10月がきのこの需要が最も高まる時期であることから、1995年に制定されました。そこで今回は、子どもから大人まで楽しめるきのこの本をご紹介します。

1冊目は、降矢なな/作『ナミチカのきのこがり』です。

ナミチカは、おじいちゃんといとこのアンドレと一緒に初めてのきのこ狩りに出かけます。きのこを探すことに夢中になっていたナミチカは、いつのまにか森の奥へ。そこで見つけた赤いきのこを眺めていると、突然軽やかなリズムで不思議な踊りを踊りだして…。迷子になったナミチカは、おじいちゃんとアンドレの二人と再会することが出来るのでしょうか。

不思議でちょっぴり怪しいきのこの魅力がたっぷりつまった、きのこ好き必見の絵本です。

2冊目は、松岡達英/構成・下田智美/作『きのこはともだち』です。

小人の女の子は、秋の日に森の仲間とともに野原にやってきました。周りを見回していると足もとの木や草の間にあるきのこを見つけます。そこで、近くの人にきのこを探しに行く事に…。山の中では、背の高いきのこから、かさのないもの、ほうきみたいなものなど形が様々で、色も赤色や黄色、紫色などカラフルなきのこに出会います。

この本は、形も色も不思議な“きのこ”の世界を絵本仕立てで描いています。きのこの名前や特徴、料理の仕方、毒きのこの種類、きのこ狩りに行く時の注意などを分かりやすく説明しています。きのこの入門書として、親子で読むのにピッタリです。

3冊目は、樋口和智/著『部屋で楽しむきのこリウムの世界』です。

“きのこリウム”とは、きのこことテラリウムの二つの言葉をかけあわせた言葉で、観賞用として水槽やガラス容器の中で、きのこを育てることです。「きのこを育てるのは、難しい。」と思われている方も多いと思います。ですが、いくつかのポイントをおさえれば、初心者でも育成する事が出来ます。本書では、テラリウムに使う材料や道具、作り方や管理のポイントなど、詳しく解説しています。実際に皆さんも、観賞用のきのこリウム作りに挑戦してみませんか。

この本には著者が育てた美しく、幻想的なきのこリウムの写真も掲載しているので、自分で作るの難しいと思った方でも、見るだけで楽しめる1冊です。

図書館には、他にも人間の8割がきのこに取り憑かれている世界が舞台の小説など怪しくて不思議なきのこの世界がたっぷり楽しめる本がたくさんあります。ぜひ、図書館にお越しください。